

## ―檜原村の南秋川・本宿、南郷探訪― (14)

(記 岡本)

今次探訪(2023年5月27日(土))は、南秋川沿いの檜原街道を本宿地区の吉祥寺滝バス停から南郷地区の上川乗バス停まで遡行し、神社、学校跡などを訪ねものである。

久しぶりに週末が登山日和になった。武蔵五日市駅前バス停には登山客が溢れており、9時発の数馬、都民の森行きのバスは2便の増発となった。車窓を過ぎる深緑の景観が何とも名状し難い程に眼を楽しめ、心奥に追ってくる。9時25分に吉祥寺参道の少し先にある吉祥寺滝バス停で下車した。バス停横に「吉祥寺滝は工事等のため見ることができません。檜原村」の立看板があるが、沢に続く階段を降りてみた。少し上流にある滝(落差4m、奥行約20m、3段)に導く沢沿いの小道はやはり柵で封鎖されていた。それにしても、工事中らしき気配がないのは不可解だと思った。南秋川本流は穏やかな流れなので落差の大きな滝はありようがない。日本の滝百選の「払沢の滝」は北秋川に注ぐ支流瀬戸沢に懸かるものだ。



南秋川溪流

街道の沢側(街道は下川乗の一部を除きほぼ左岸を通る)に設けられた幅50cm程の歩道を進む。直ぐ右手に採石場が現れる。土曜日なので稼働していない。間近に見える錆びついたコンベアと禿げた山肌が周囲の静謐を乱している。採石場の先は、民家が途絶える。

南秋川は歩道から10m乃至20mの眼下を流れており、「谿谷」という字が相応しい。さらさら、ごうごうという瀬音が近く遠く聞こえる。時折、樹間から白く滾る流れが垣間見える。歩道から沢へ釣り人が往来した踏み跡が所々に見える。その近くに、秋川漁協は「密猟監視中、10月1日より禁漁」の幟を立て掛けている(禁猟期間は10月1日から翌2月末まで)。

採石場から2キロ程先、右手から馬道沢が流入する辺りに笹野がある。笹野の馬場では檜原村でただ一ヶ所、馬道沢から引水した水田が昭和30年代に耕作されていたという。どこなのか訪ねようとしても尋ねるべき通行人に逢えなかった。笹野の旧道寄りの山麓に古色を帯びた小振りの鎮守神明社が佇む。神明社は秋の祭礼日に能系統の舞である「式三番」(都文化財指定)が奉納されることで知られている。狭い境内には立派な笹野自治会館が建ち、南秋川を挟んで西方向の右岸に豪華な特別養護老人ホーム「檜原苑」が望まれる。笹野大橋を渡ると民家は絶える。



街道を南に辿ると、行手の東方向から南秋川に小坂志川が流れ込んでくる。両河川が合流する辺りの河原に笹平の集落が形成されているが、「平」という感じは少ない。笹平バス停脇に「市道山、臼杵山」登山口の道標がある。2018年1月にこの登山口からヨメトリ坂、市道山、吊り尾根、醍醐丸を歩いたことがある(山行報告は山行回数5637回)。

南郷神社

この道標の先、200m程の右側に「松生山(933.7m)登山道入口」(30cm幅の板)が立っている。畑の中の道を通って行くが、その先の山道は案外分明で松生山経由で浅間嶺に至る。この道はアルコウ会入会前年の2014年9月に登山口から松生山、時坂峠を歩いた。街道は松生山登山口の直ぐ先で南行から西向きになるが、この辺りで本宿地区から南郷地区に変わる。

柏木野が現れる。昔柏木野から笹野へ山嘴(さんし)を越える間道(峠の最高点498m)があった、距離として沢沿いの笹平経由の半分で往来できた。間道は連尺タワ道と呼ばれていたという。歩道で出会った柏木野のお婆さんに間道について尋ねたが、「在ったようだが、どこか知らない」との応答であった(連尺とは簡単な背負子、連尺商は行商人)。日を改めて連尺タワ道を探ってみた。柏木野バス停に「産業廃棄物焼却場反対、都民の水源地です」と書いた鯉職が掲げられている。このままでの歩道脇でも幾つもの同じ鯉職を見た。柏木野には神代神楽(都文化財指定)が伝わっている。街道筋には民家が密集し、豊かな集落に見えるものの、廃屋や山麓の放棄畑が眼に着く。バス停の50m程先に三国峠みち(万六尾根)を経由して笹尾根の連行峰に至る登山道入口の道標がある。2016年3月に上野原側から生藤山、連行峰、万六尾根を歩いた(山行報告は山行回数5553回)。

幾つかの山嘴を巡って出畑(いずばた)に至る。この辺り、流れはもがく蛇のように曲折している。出畑バス停を過ぎて鋭角に屈曲した先、街道と旧道の分岐点に「矢沢林道、生藤山」登山道入口の道標が立ち、さらに300m程先に南郷バス停がある。バス停前の押しボタンス式信号から旧道側へ細いセメント道を降っていくと、右手一帯に建設資材置場のような雑然とした広場が現れる。ここが昭和60年に檜原小学校に統合された末に廃校となった南檜原小学校跡である。広場の一角、廃材の山に隠されたようにして自然石造りの「南檜原小学校跡」の碑が佇む。別の場所に立つ「増築記念碑」には、拠出金者芳名録が刻まれている。年代は読み取れないが、100円から最高額500円が拠金され、校地182坪寄贈云々とあるのが読み取れる。恪勤精励して得た財産を賣いでも子弟教育に貢献しようとする僻陬の人々の意気軒高を痛感した。校舎はすでに跡形もないが、「昭和52年度卒業記念」と刻んだ、卒業生が作成した富士山の石像が証人のように生々しく静かに立っている。校庭の片隅には、南郷コミュニティセンターの建物が建ち、ゲートボールのラインが引かれている。バス停の信号は子供達の登下校を見護るためのものだったのだ。



南檜原小学校跡の石碑

南郷バス停から400m程先に南郷神社名の石碑が立つ。本殿は街道から高低差約50mの急坂を登った山麓に鎮座する。苔むして傷んだ石段には、サッカーボールのような檜の実が無数に敷き詰められている。一握り程、ポケットに入れる。境内に建つ再建碑(平成12年)によれば、出畑の一開拓者峰岸六左衛門藤原延景により1345年に創建された。もとは三島権現と称したが、明治の神社統合制により柏木野、出畑、下川乗の8社が合祀されて南郷神社となった。

南郷神社下から、下川乗の京岳(きょうだけ)バス停、下川乗バス停の間は民家が連なっている。入沢との合流点を過ぎ、滑石橋の先の山嘴を巡ると上川乗である。北側から万成沢(まんなり)が流れ込む合流点に上川乗の集落が形成されている。上川乗バス停の100m程先に浅間嶺に続く「関東

ふれあいの道、浅間嶺 2.9km、時坂峠 6.2km」の登山道入口の道標がある。2009年4月に、この関東ふれあいの道を歩いた。登山口の先、30m程に信号設置の三叉路がある。南方向に左折すれば、甲武トンネルを経由して山梨側の桐原(ゆずりはら)に通じる。信号を左折して少しの所に、笹尾根の浅間峠に続く登山道入口がある。2009年4月藤野駅側から三国山、浅間峠越えで降りてきたことがある。



路傍の4基の石碑

今日最後の目的地である村社熊野神社は、三叉路から100m程先を右側に入った山麓にある。社は質素な作りながら神さびた佇まいである。注連縄が施された老杉が社に寄り添うように立っており、檜原村天然記念物名木第1号に指定された堂々たるその樹影(幹周り6m、樹高約50m)は守護神のようである。最後に触れておきたいのは、上川乗は古の両墓制の痕跡を留めているところということがある。

穢れた遺骸を捨て別個に成仏した靈魂を祀るという、遺骸の埋葬地と別に墓地を置く風習である。都内では上川乗と八王子の恩方の二ヶ所で両墓制が報告されている。火葬の一般化とともにこの風習は消滅したという。

4時半に上川乗バス停に戻った。1時間も待った末、漸く5時半のバスに乗車、武蔵五日市駅に向かった。(了)

#### 参考資料

「檜原村紀聞、その風土と人間」 瓜生卓造著 昭和52年6月刊

「郷土史 檜原村」 檜原村教育委員会 平成8年3月刊

「青梅市の民俗」 青梅市教育委員会 昭和47年3月刊